

令和2年12月15日

関係者各位

徳積財団 神家総本家当主 野見山広明

## 古民家と暮らしの甦生 第一回勉強会のお知らせ

師走の候 平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、急ではございますが古民家での暮らしの勉強会と基本的な手入れの方法を学ぶ講演会を下記要領にて開催致します。今回は、徳積堂（徳積カフェ）の完成にあわせて、そのお披露目と合わせて建具の活用や磨くことで甦る手法など、野見山しかわからない古民家甦生の極意なども披露いたします。来年の2月まで合計3回にわけて、開催される古民家と暮らしの甦生の勉強会の第一回目は基本中の基本について体を動かしながら一緒に学び合います。

御多忙中とは存じますが、お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 記

- (1) 日程：2020年12月23日（水）  
10:00～ 受付開始  
10:30～11:00 講話 「日本民家を甦生するために絶対に必要なこと」  
11:00～12:00 手入れのワークショップ（米糠や蜜蝋の使い方を体験します）  
12:00～14:00 伝統の道具たちを活用した「お餅つき」&会食（自由参加）
- (2) 研修費：無料
- (3) 定員：10名
- (4) 申込方法：参加ご希望の方は、[カグヤHPの「news」ページ](#)よりお願い致します。
- (5) 会場：『徳積堂』（BA内）福岡県飯塚市有安848-17（駐車場も上に25台ほど停められます）  
※旧庄内町の鳥羽池、また庄内交流センターの隣です。（地図：<https://bit.ly/2Kv9sw7>）



### 追記

「今回の勉強会はコロナウイルスの関係もあり、人数をかなり制限して開催されます。感染対策には、徹底して気を付けるよう、消毒や検温、3密を避け、また空気が澁まないように配慮いたします。

## プロフィール

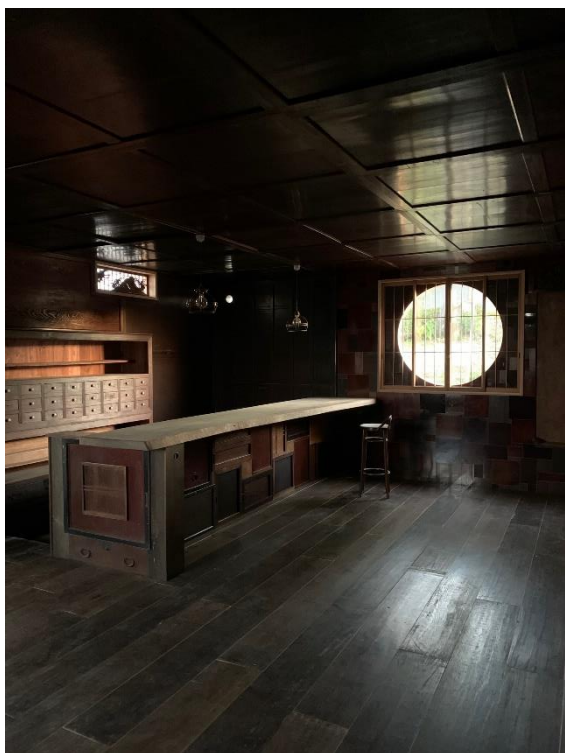
野見山広明 (一財) 徳積財団 副理事長 (株)カグヤ 代表取締役 1976年 福岡 (飯塚市) 生まれ。

若い頃から「持続可能な循環社会」に興味を持ち、「環境ビジネス」を手掛けた後、新しい未来を創造するためには「子ども」を中心とした「子縁社会」の実現が必要であることに気づき、「子ども第一義」を掲げて「見守る保育」事業をスタート。現在、日本全国でその実践指導をしている。

と同時に、『聴福庵 (ききふくあん)』を初めとする古民家の蘇生を通じ、「日本民家の暮らしの豊かさ」を使って生き方を磨く「場道 (BADO)」を探求する他、持続可能な「徳循環」を学ぶため、『昔の田んぼ』 (千葉) や『福岡農園』 (福岡) にて、循環型完全自然農法によるお米や野菜作りを行う。更には、地元飯塚市にて、ブロックチェーン技術者とともに新しい働き方を創生する「ブロックチェーンストリート構想」を掲げ、現在「場力 (ばぢから) による未来型施設」として『BA (ブロックチェーン・アウェイキング)』を建設中。

17歳から毎年「松陰神社」への参拝を欠かさず、人生で出逢った「ご縁」ある人々の「志」を受け継ぎ引き継ぐ形で、「与えられた使命」を選ばずに次々と実践展開している。

子どもたちに「懐かしい未来」を遺すため、「復古起新」を実現すべく、「人」だけでなく「モノ」も含めたすべての縁に「まごころ」を尽くし、その徳に報いようと「一期一会」の日々を全力で生き切っている。



「徳積堂」



野見山 広明

## 事前予習の内容 (かんながらブログより抜粋)

### @手入れの生き方

全ての道具には「手入れ」という方法があります。その道具に合わせて、様々な手入れ方法がありその通りに手入れをしなければかえって傷んでしまうことがあります。しかし現代は、大量生産大量消費の時代の流れの中ですぐに新しいものが出ては古いものは捨てますから手入れすることがなくなってきました。

そのうち手入れする手間をかけるよりも新しく買った方が早いし安いという風潮が広がり、今ではほとんど手入れ道具も手入れ方法も知らない人たちがばかりになってきました。

どんな道具も、物も手入れしなければ長持ちすることはありません。それは道具は使えば使うほどにすり減っていき、摩耗摩滅していくからです。未永く大切に使うものは、摩滅する瞬間までそのいのちを使い切ります。

以前、民藝品を見学したことがありましたがその民藝の道具たちはみんな手入れによって美しく輝いていました。私が今、古民家で活用している和包丁も明治のものや江戸のものがあります。

今でも研いで手入れすれば、大変な切れ味で料理をおいしくしてくれます。他にも、革製品、紙製品、木製品、土製品、すべての自然物を加工したものは手入れさえしてあげていればいつまでも美しく輝き続けるのです。

この道具や物たちの摩滅するまでの期間に私たちが取り組むべき実践は「磨く」ということです。磨くからこそ摩滅しますが、磨くからこそ美しく光ります。この光らせていくという実践は、それぞれが丁寧に心を籠めて努力していくことです。

これは自分自身にしてもそう、所属する会社や仕事でもそう、そしてまちづくりや国造り、地球への貢献や自然との共生においてもそうです。

どれだけ真摯に自ら磨こうとしたか、その努力を惜しまなかったかが全体を調和させ、平和を永続させていくのです。そしてこれは「生き方」であるとも言えます。

現代の問題は、この手入れする生き方が失われてきたことです。

もう一度、子どもたちに大切な生き方が伝承されすべてのいのちが大切に扱われそれが未来の平和を持続させていけるように手入れの生き方を伝承していく必要があると私は思います。

## @手入れとは

「手入れ」という思想があります。これは一般的には、よい状態に保つために、整えたりつくろったりして、手を掛けることをいいますが私にとっては「磨く」ということと同じだと定義しています。

人はどんなことでも「磨く」ことで愛着が湧き、さらに磨く面白さがわかっていきます。この磨く面白さは、手入れの面白さなのです。少しずつ手入れをしていくうちに、取り組んでいることの本質を知ったり、そのものの価値を学び直したり、さらには関係性の中でお互いに尊敬、尊重しあったりすることができます。

これは人と物との関係もですが、人と人との関係もまた同様です。手入れをしていくことは、それ自体が関係性を結んでいくことであり、お互いのご縁の存在を磨き光らせていくのです。

磨くために大切なこと、手入れのためにもっとも重要なことはそのものの存在を深く知ることからはじまります。五感を総動員し、また第六感までも使い、そのものの存在に触れていきます。そうすると、そのものが何の役に立ちたがっているのか、なぜこの存在が生まれたのか、どこで活かすことができるのかが少しずつ見えてきます。

そして場数を経ることで次第に、お互いの善さがもっとも引き出し合える場所を見つけることができます。その場所を大切に守り、それをいつまでも手入れし続けることでさらに関係が磨かれ珠玉の輝きを発揮しだします。

だからこそ手入れを怠らないようにすることが、人間が人間らしく生きていくための智慧になるのは間違いありません。

一人一人が手入れをし、磨き続ければこの世はそれぞれが光り輝いていきます。そうやって輝いていく人が増えていけば、この世は明るく平和になっていきます。手入れすること、磨くことは、私の人生の大テーマです。

引き続き、子どもたちに手入れや磨くことを伝承していくために私自身が楽しく豊かに磨きを楽しんでいきたいと思います。



## 古民家と暮らしの甦生勉強会 今後の実施内容

### ※第1回 「磨くということ」

～古い物はくすんでいく、それは磨かないから。磨くことで新しくなる～

温故知新、古い物の活かし方、よみがえらせ方を学ぶ。

内容：蜜蝋、米糠オイル、椿油、木製オイル、亜麻仁油等で、道具に合わせて磨き方が異なり、その磨き方を学ぶ。

時期：2020年12月23日（水）10時30分～14時

場所：徳積堂（福岡県飯塚市有安 848-17）

費用：無料

### ※第2回 「発酵技術による保存」

～家を長持ちさせ、風化を抑えるために発酵技術を活用することで寿命を延ばす～

日本の伝統文化の智慧、発酵による防カビ、抗菌、伝統塗料の使い方で素材を活かすことを学ぶ。

内容：柿渋、渋墨、弁柄などの伝統塗料を用いて家を長持ちさせる仕組みを学ぶ。

時期：2021年1月29日（予定）

場所：「聴福庵」（予定）

費用：無料

※詳細につきましては、決まりましたらご案内致します。

### ※第3回 「暮らしの室礼や古民家の楽しみ方」

～季節や旬のもの、自然と共生しながら家を豊かにしていく～

古民家の甦生は、暮らしの甦生でもあります。暮らしの甦生を通して、懐かしい日本的な暮らしを体験します。

内容：一輪挿し、床の間の飾り方、季節の行事について、風通し、陰翳礼賛、四季折々の建具の変化などを学ぶ。

時期：2021年2月26日（予定）

場所：「聴福庵」またはBA（予定）

費用：無料

※詳細につきましては、決まりましたらご案内致します。